



「自然の力で健康を取り戻す」方法を伝える仕事

第2回 夢に向けての羽ばたきと転落

2015年4月27日

ニューヨークという場所は世界中から、世界初の新しいことをしたいという野望を持った人たちが集まる所です。私の周りでも友人たちがどんどんと飛び立って行きました。私はこのニューヨークのエネルギーの渦に飲み込まれました。自分の夢を叶えて飛び立っていった友人たちのように私も羽ばたきたくなくなってしまいました。

一度しかない人生。
仕事をしたい。
貢献できる形で世の中とつながってみたい。

「主人の次の転職を待って進路を決めよう」とか、「何か転職のチャンスを待とう」というような待ち続ける人生でなく、「今」自分のしたいことをして、瞬間瞬間を生き抜いてみたい。そう強く思うようになりました。

今の私なら、駐在員の妻という立場でもそれを満たす方法をいろいろ工夫することができるかもしれませんが、思い込みの激しかった当時の私にはできませんでした。16年共に過ごした夫には、わがままをぶつけてしまい本当に申し訳ないことをしました。それでも、どうしても自分で自分の人生を上げることができたのです。

とても尊敬し信頼していた夫と、私は離婚することになりました。

夫は言ってくれました。

「あなたはやれる人だから、やりたいことをやって」と。

自分で選択したことだったのに、地獄のような別れの苦しさでした。日本に帰国し、引きこもり、毎日泣いて暮らす日々。不眠症になり、それは1年半続きました。体調不良になり電車の中で倒れるようになりました。その時に受けた健康診断の再検査で、私は「子宮がん」と診断されました。

自己治癒力で治したいという変わり者の私は、病院には一切行きませんでした。抗がん剤や手術を受けたくなかったからです。私は小さい頃からアレルギー体質だったので、病院の薬は一時的に症状を麻痺させても、根本的な解決にならないことを身にしみて理解していました。

ホメオパシー（同種療法）への挑戦

自然の道理に沿ったさまざまな自然療法を自分の体で試し続け、こちらの方が自分の考えに合い、本質であると感じていた私は、それまでの人生で一度も試したことがなかったホメオパシー（同種療法）なるものを、この身体で試してみようと思いました。



■羽田賀恵氏（撮影：加藤康）

ストレスで不眠症になり、皮膚疾患などさまざまな症状が出ていた私でしたが、このホメオパシーのセッションを受けた日の夜、寝ようと布団に入った瞬間に眠りに落ちてしまうという信じられないことを経験しました。寝ようと思った時に寝られたのは1年半ぶりでした。驚くべきことに、同時に患っていたその他の症状もその日のうちにすっかり緩和されました。手術や抗がん剤治療などは行わなかったのですが、がんの症状は、10年経った今でも感じられません。

現代医療を否定するつもりは全くありません。ただ、先日WHOからも発表されたように抗がん剤の治癒率は決して高くないことや、副作用が出ることをもっとオープンに知ることができる環境を整えば理想的だと思います。その上で患者本人が信じる方法を本人の責任の上で選択できることも非常に大切なことだと思います。

ミラクルが起こったような体験の衝撃によって、私はホメオパシーを学ぶことを決意しました。派遣で外資系会社の秘書の仕事をしてながら、4年間にわたり学校に通いディプロマを取得しました。「健康とはどういうことか」「病とはなにか」、哲学、臨床ケース、解剖生理学など、この学校で多くのことを学びました。ニューヨークでの勉強や、自らの死を意識して学んだ多くのことと、この学びは大きくリンクして、私自身の中で熟成していきました。本質的に健康で幸せになるためにはどうしたらいいのか。ぶれない軸ができ上がってきました。

学校を卒業した頃に新聞の一面にある事件が掲載されました。ホメオパシーの施術者が、患者に対して必要な現代医療の施術を行わなかったために患者が亡くなってしまったという事件です。この事件は明らかにこの施術者の落ち度でした。現代医療が必要な場面と、自然療法でできる場面があり、お互いに補い合うことが大切です。緊急を要する際には、特に自然療法を万能だと妄信しないことが非常に重要です。

この事件のあと、世の中にはホメオパシーが恐ろしいものだというイメージが誤解とともに広まってしまいました。学校は卒業しましたが、これではこの道で起業して生計を立てていくのはタイミング的に難しいと思いました。学んだことは確実に大きな糧になっている。簡単に忘れるような種類の知識ではない。将来いつでも始めることはできる。今は他の道を選ぼう、とホメオパシーでの起業を先延ばしすることを、この時はあっさりと決断しました。

振り返るとタイミングや縁とは不思議なものです。

ちょうどこの頃に、代官山でオリジナルのローチョコレート（非加熱カカオのヘルシーチョコレート）を製造販売しているアメリカ人の姉妹と出会い、彼女たちの仕事を手伝うようになったのでした。（次回に続く）

Copyright © 2017 Nikkei Business Publications, Inc. All Rights Reserved.

日経BP社

このページに掲載されている記事・写真・図表などの無断転載を禁じます。

掲載している情報は、記事執筆時点のものであります。